

図2. ヤナギタデに産卵する (a) シマゲンゴロウ雌個体及び (b) 葉表面に産み付けられた卵。

末筆ではあるが、水田での調査を快く許可して下さった石岡市の西村静江氏と矢野徳也氏、原稿をご校閲してくださった筑波大学生命環境系の横井智之助教に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- 市川憲平, 1984. ゲンゴロウの飼育から. インセクタリウム, 21 (3): 60-62.
- 市川憲平, 2002. ゲンゴロウ減少要因について. ため池の自然, 36: 9-15.
- 上手雄貴, 2008. 日本産ゲンゴロウ亜科幼虫概説. ホシザキグリーン財団研究報告, 11: 125-141.
- 森 正人・北山 昭, 2002. 日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京.
- 西城 洋, 2001. 島根県の水田と溜め池における水生昆虫の季節的消長と移動. 日本生態学会誌, 51: 1-11.
- 都築裕一・谷脇晃徳・猪田利夫, 2003. 水生昆虫完全飼育・繁殖マニュアル普及版. データハウス, 東京.
- Rasband, W. S., 2011. ImageJ. U. S. National Institutes of Health, Bethesda, Maryland, USA. Available from URL: <http://imagej.nih.gov/ij/>
- 渡部晃平, 2017. 絶滅危惧種に指定された水生昆虫と水田との関係. 昆虫と自然, 52 (4): 5-8.

(渡辺黎也 305-0005 つくば市天久保 4-5-16
筑波ビューハイツ 207 E-mail: biolfc14.cb@gmail.com)

【短報】沖縄県うるま市の島嶼部（伊計島・宮城島・藪地島・津堅島）におけるタマムシ科甲虫4種の記録

沖縄県うるま市は沖縄島の中部に位置し、伊計島や宮城島、平安座島、浜比嘉島、藪地島、津堅島などのいくつかの小島を太平洋側に有することが知られている。この島嶼部におけるタマムシ科甲虫の分布記録は少なく、これまでに計6種が一部の島（伊計島1種・宮城島1種・浜比嘉島4種）から確認されているにすぎない（Tōyama, 1985；木村ら, 2003；宮城, 2014；楠井・宮城, 2017）。今回、筆者の一人である重藤は、伊計島および宮城島、藪地島、津堅島から各島においてこれまで記録の無かった計4種の本科甲虫を採集しているので、新分布記録としてここに報告する。この結果、うるま市の島嶼部全体でタマムシ科甲虫の記録は9種となる。なお、採集地名は沖縄県うるま市が全標本共通のため省略し、検視標本はすべて瑤寺が保管する。

報告に先立ち、原稿をご校閲いただいた石川県ふれあい昆虫館の福富宏和氏にこの場をお借りして厚く感謝申し上げる。

1. タマムシ奄美・沖縄亜種 *Chrysochroa fulgidissima alternans* Waterhouse, 1888 (図1)

検視標本：2 exs., 与那城上原（宮城島），12. VIII. 2018, 重藤採集。

宮城島初記録。本亜種は奄美群島および沖縄諸島の島々に分布することが知られており（林, 2006；大桃・福富, 2013），最近では伊平屋島からも記録されている（宮尾, 2019）。森林に面する道路において強風の影響により低空を飛んでいたところを捕虫網で採集した。

2. ミドリナカボソタマムシ *Coraebus hastanus* Gory et Laporte de Castelnau, 1839 (図2)

検視標本：3 exs., 与那城上原（宮城島），12. VIII. 2018；1 ex., 勝連津堅（津堅島），16. III. 2019；1 ex., 与那城屋慶名中央道路（藪地島），13. IV. 2019, 重藤採集。

宮城島および藪地島、津堅島初記録。日本国内において、本種は奄美大島以南の南西諸島に広く分布している（大桃・福富, 2013；楠井, 2017；酒井, 2017；瑤寺・吉武, 2018；檜木, 2018；瑤寺ら, 2018）。寄主植物のアカメガシワ *Mallotus japonicus*（トウダイグサ科）のスウィーピングによって得られた。

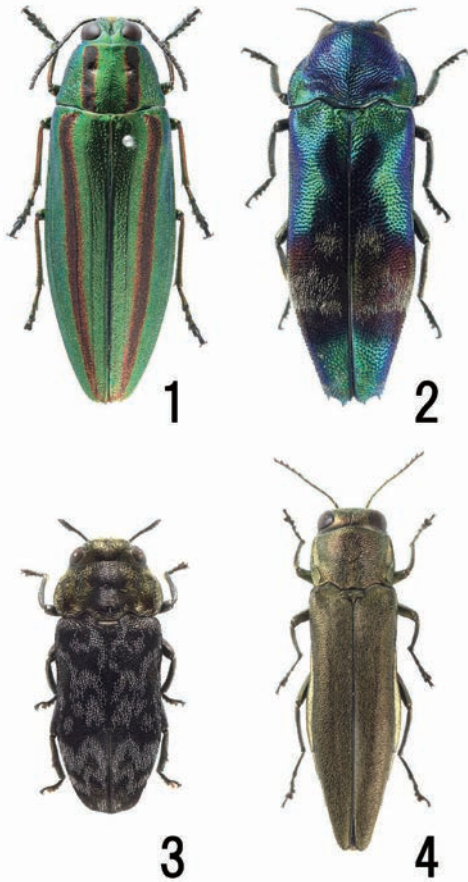


図1-4. 沖縄県うるま市島嶼部のタマムシ類4種：1, タマムシ奄美・沖縄亜種(宮城島産)；2, ミドリナカボソタマムシ(宮城島産)；3, ヤエヤマムナビロタマムシ(伊計島産)；4, リュウキュウナガタマムシ日本亜種(伊計島産)。

3. ヤエヤマムナビロタマムシ *Sambus yaeyamanus* Kurosawa, 1985 (図3)

検視標本：2 exs., 与那城伊計伊計灯台付近(伊計島), 16. IX. 2018; 3 exs., 与那城屋慶名中央道路(藪地島), 8. X. 2018, 重藤採集。

伊計島および藪地島初記録。本種は伊計島, 藪地島の他に沖縄島および宮城島(うるま市), 先島諸島から記録されている(木村ら, 2003; 大桃・福富, 2013)。寄主植物であるタイワンウオクサギ *Premna serratifolia* (シソ科) のスウィーピングによって得られた。大桃・福富(2013)では, 本種成虫は4~7月にかけて野外で確認できるとされているが, 木村ら(2003)や今回の記録のように9月以降に成虫が採集される例もある。

4. リュウキュウナガタマムシ日本亜種 *Agrilus orestes takaii* Nakane, 1983 (図4)

検視標本：2 exs., 与那城伊計伊計灯台付近(伊計島), 17. VI. 2018; 2 exs., 与那城上原(宮城島), 12. VIII. 2018, 重藤採集。

伊計島および宮城島初記録。本亜種は伊計島, 宮城島の他に沖縄永良部島および沖縄島, 石垣島から記録されているが, 石垣島の記録はセキナガタマムシ沖縄・八重山亜種 *A. sekii yaeyamanus* Ohmomo, 2004 の誤同定である可能性が指摘されている(大桃・福富, 2013)。寄主植物であるクワノハエノキ *Celtis boninensis* (アサ科) のスウィーピングによって得られた。

引用文献

- 林 信一, 2006. 久米島でオオシマルリタマムシを採集. 月刊むし, (430): 14.
 檜木忠志, 2018. 八重山諸島の黒島・小浜島で採集したタマムシ. 月刊むし, (568): 55.
 木村正明・杉本雅志・福富宏和, 2003. ヤエヤマムナビロタマムシの沖縄諸島における記録, および成虫の食樹記録. 月刊むし, (394): 4.
 楠井善久, 2017. 瀬長島(沖縄県豊見城市)の甲虫目録(1987年から2007年まで). 琉球の昆虫, (41): 25-32.
 楠井善久・宮城秋乃, 2017. 浜比嘉島(うるま市)の甲虫目録. 琉球の昆虫, (41): 39-49.
 宮城秋乃, 2014. 2013年度浜比嘉島の昆虫調査報告. pp. 21-51. うるま市立海の文化資料館(編), うるま市立資料館紀要創刊号, 100 pp. うるま市教育委員会.
 宮尾真矢, 2019. 沖縄県伊平屋島におけるタマムシの記録. さやばねニューシリーズ, (33): 15-16.
 大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本産タマムシ大図鑑. 206 pp. むし社, 東京.
 酒井 舜, 2017. 久米島におけるミドリナカボソタマムシの記録. 月刊むし, (562): 27.
 瑤寺 裕・吉武 啓, 2018. 徳之島で採集されたタマムシ科甲虫. 月刊むし, (565): 12-17.
 瑤寺 裕・長野宏紀・小島弘昭, 2018. 沖縄諸島伊是名島におけるタマムシ科甲虫2種の記録. さやばねニューシリーズ, (32): 49-50.
 Tōyama, M., 1985. The buprestid beetles of the subfamily Agrilinae from Japan (Coleoptera, Buprestidae). Elytra, Tokyo, 13: 19-47.
 (瑤寺 裕 243-0034 厚木市船子 1737
 東京農業大学昆虫学研究室)
 (重藤裕彬 900-0001 那覇市港町 2-11-1
 那覇植物防疫事務所)